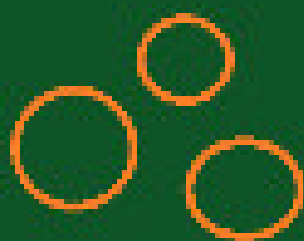


ものみだいからの
ケイザイガク



エイソウ

目次

ものみダイからのケイザイガク
エイゾウ

はじめに

わたしは、これまでにななサツホンをだした。ロクサツはズイヒツで、イッサツは、ブツリガクっぽい（わたしは、ガツカイトウにショゾクしていないので。）ホンである。このイッサツは、ロクサツからバツスイしてコウセイした。ホンチョは、これがケイザイガクでもできないかとおもい、やはりロクサツからバツスイしてコウセイした（やはり、ガツカイトウにはゾクしていない。）。

キホンテキに、インヨウはしていない。カッターリュウのケイザイガクである（それをなのっていいのかというモンダイはある。）シャカイシュギケイザイはシツパイしただろうが、シホンシュギケイザイもセイコウしたというわけではない。ただ、イッポウよりながいだけだ。「デフレ」のモンダイは、シホンシュギケイザイにつきまどっている。それを「キンユウカンワ」でのりきろうとするのが、いまフウであるが、ショミンのセイカツがくるしくなる。このホンで、このこたえはだしていないが、ひとつのシュダイである。そのうちでもこたえがみえればいいとおもう。

イチ『アルカラ カンガエル（イカ、『ア』）』ゴジュウヨン

フンをうみにながせば、うみにシゲンというかがたまる。ハイセツブツ といったって、こしたあとのショクブツ、ドウブツセイブンだから。ま、それをうみにながしていると。ま、すくなくともかわにはながしている。だからうみにもみたいなのがハッセイしたりするんだらう。

むかしみたいにはたけにまけば、わりとちかいところで ジュンカンする。でもスイセンベンジョは やめにくいんだらう。ショクブツだけなら はたけとジブンとで ジュンカンするだけだ。ムダがないからヒリョウも そんなにいらないだらう。

ニ『ア』 ロクジュウゴ

マルクスはなにをのこしたか。キョウサンシュギコクとだれかがいうかもしれないが、わたしにとってはそうでない。いや、それもあつた。ケツキョク、シホンカがつよいのはしょうがない。ロウドウシャは はたらいてかねをてにする。だったら、ウンドウするジカンをけずって かねをてにしたほうがよいのではないかと。つまり、はやいものがちだと。だから、すぐにやらなければならない。

たしかに ウンドウをして タシヨウチンギンはあるかもしれないが、そのためには やすジカンは、そのジカンはたらいていたら どのくらい かせげたかをかんがえるとどうなのかと。ケツキョクシホンカがはらったりするんだらうけど そのキギョウはシキンテキによわる。それはロウドウシャにとってどうなのか。ソレンのようにセイコウした、する、かもしれないが、キョウソウではうまくなかった。いいコウエキができないとなれば、その、シホンカ、キギョウはよわっていく。それだったら、すぐにしごとをしろと。そういう、マルクスのキョウクンはいかしたい。

キョクロンすると、ハンセイするまもないのだ。だから、コンサルタントなんだ。コンサルタントになりたきケンキュウするといひ。でも、ゲンバがダイジじゃないかと。それに、そのしごとのセンクシャもある。レキシのケンキュウをしているようじゃニリュウだと。シュウエキを あげられるんならいいですが。

サン『ア』 ハチジュウ

エイキョウリョクのあるひとが、やすくていいものを たべていたら、まねとかして そのやすくていいショクリョウはタイリョウにショウヒされるかもしれない。

だから、たべものを ショウカイするテレビばんぐみでは、ジュウヨウなショクリョウでなく、チュウカメン とかパン とかを シュザイするんだらうとおもってしまう。ヨウするに、チュウカメンとか パンはしなぎれしてもいいと、シュザイするひとはかんがえているが、タブン、やきニクは しなぎれしては まずいとおもっているのでは。

そういえば、ナナジュウネイジョウまえのセンソウは、ニホンジンが ギユウニクを たべはじめたからタイヘンだったという「すきやきセンソウ」ともいえるかもしれない。カチクをきりくずすっていうのは ショミンにとってのセンソウである。さかなくって りやいいのにおもってしまう。そういうセンソウがおこってはたまらない。だからといって まったくニクをたべないのはむずかしい。でも、そういう、ううしい とか、うまいはモンダイだと。うしはノウギョウとか、うまはイドウにとかにやくにたつ。だから、「ぎよい (しい)」がいいか。

よん『ア』 ヒャクニジュウハチ

センシンコクビョウ (●『ア』サン) とはセンシンコクにおける、トウルイ (さとうなど) のケツボウである。どうしてもみなみにむきがちだ (トウルイがとれるから)。さらに、ネンリョウももとめたりする。そういうシゲンをめぐる あらそつたり。うまく

セツヤクしながらやっていけばいいが。

ゴ『ア』ヒャクゴジュウサン

マルクスはシホンカによる「サクシュ」があるといったらしい。その「サクシュ」をふせぐためにレンタイするのは、タブン ソレンのがんばりからもたしかなんだろう。しかし、ロウドウシャがすぐにでもシホンカに なるかといったらむずかしい。それはそういう、かねをウンヨウするドリョク とかについて シホンカのホウがはやくとりくみはじめたからだ。だから、シホンカがロウドウシャになるのもむずかしい。それは、ロウドウするドリョクはすでにロウドウしている ロウドウシャのホウがはやくとりくんでいるからだ。ケッキョク、マルクスとそのエイキョウがあったひとたちは なにをしめしたかという、「はやくだりョクしたひと」が ほかのそうでないひとよりもユウリである。ということではないだろうか（●ニ『ア』ロクジュウゴ、『ア』キュウジュウ）。わたしは それをマルクスのキョウクンとよんでいる。

ロク『ア』ヒャクゴジュウロク

「ショウヒシャ」ということばがあるが、「ロウドウシャ」とか「シツギョウシャ」のしたに「ショウヒドレイ」カイキョウがあるようにおもう。わかりやすいレイでいえばアルチュウとか。さけのショウヒを やめられず、また、ドをこしてさけをかってシャッキンつくるとか。ほかのものでもそうだ。そういう「ショウヒドレイ」カイキョウにはならないようにしたい。シツギョウシャは さらにシツギョウしないが、そういうカイキョウにおちるかもしれない。

なな『ア』ヒャクロクジュウイチ

しゃべるはやさがはやいホウがしごとがはかどっているといえないか。セツメイなんかも、しゃべるはやさがニバイなら、ニブンのイチのジカンですみ、ほかのしごとができる。ながいといわれるカイギもサンバイのはやさのしゃべりなら、サンブンのイチのジカンでおわる。それなのになぜ ガッコウに、ニバイソクコースとかサンバイソクコースがないか。おしえられるひとが いないのかもしれない。

ハチ『ア』ヒャクキュウジュウゴ

ニホンジン「チョウジュ」といわれているが、シヨクリョウのジキュウリツは ヨンジュッパーセント。カンサンするとハチジュウネンいきたひとの ヨンジュウハッサイブ

ンは、ユニウということになる。だから、なんかのリウで ショクリョウユニウが
テイシされると、ニホンジンのジュミョウはサンジュウニサイにちかづいていく。それ
なら ユニウにたよらずになんだがあまりうまくいっていないようだ。キカイものを
うって、「ジュミョウ」をてにいれるなんてまるで レンキンジュツだ。

キュウ『ア』ニヒャクジュウニ

わたしは、「シホンシュギ」というのは、それぞれのオーナーが、「わるいやつ」からザイ
サンを まもるために いろいろなクフウをしていこうとするかんがえとおもっているが、
そのひとつのレイとしてき（くだものなる）のケイタイがある。「わるいやつ」は、「は
しご」をもっていないので、「くだもの」をとれない というソウテイである。くだものは
たかいところになり、みきのしたのホウはえだがない。そういうケイタイが おおいと
おもう（●『ア』ニジュウキュウ）。きがさきか、シホンシュギがさきかはわからない。
それをわたしは「シホンシュギのケイタイ」とよぶ。そのシホンシュギの ケイタイに ニ
ホンの ネンレイベツジンコウコウサイズが にている。いってみれば、ショウシコウレイ
カはシホンシュギだからしかたない、といえる（しかしあるカンサツでは、したのホウ
が さかえることもカノウなようだ。ただ、ニンゲンが あたらしい「シホンシュギ」の
ケイタイになれるヒツヨウが ありそうだが。）。つまり うえのホウがさかえているのだ。
ま、わかいひとのカンシンは、「み」がおちてくるかというところだろうか。

ジュウ『ア』ニヒャクニジュウゴ

けさ、ジーディーピーをカンサツしたら、あまりうごいていなかった。ヨジごろよりも
ゴジごろのホウがうごいているとおもう（イゼンのカンサツより）。やっぱりニツチュウ
がおおいのか、いや、ヤカンのホウがコウソクにうごけるし、つまらずにうごけるから
シンヤによくジーディーピーはうごいているのではないだろうか。しかし、ショウケン
などは ニツチュウにうごくから そういふのはニツチュウだ。

ジュウイチ『ア』ニヒャクサンジュウイチ

ドウロがあったほうがジーディーピーは はやくうごける（●ジュウ『ア』ニヒャクニ
ジュウゴ）。だから ニホンも やたらドウロをつくったんだろう。でも トシコッカなら は
こぶキヨリが みじかいからジーディーピーも はやくジョウショウする。だから もっと
もひとりあたりジーディーピーがたかいのはかねもちのカテイとか、よくあるフウにい
えば トシコッカなんだろう。だからトシコッカとくらべて ひくいとか あまりきにする
ことはないとおもうが。なんなら メンセキヒをくわえてサイケイサンするといい。

ジュウニ『むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ (イカ、『む』)』 ヨンジュウ

「あたらしいシホンシュギ」というのもあるのだろう (ジツはふるい「シホンシュギ」かもしれない)。ある「(みどりのはっぱをもつ) き」がおしえてくれた。しかし、ニンゲンが (わたしが) そのあたらしいシホンシュギになれないために、むかしながらの (イッパンテキな) シホンシュギにあうようにチョウセイしようとしたりする (●キュウ『ア』ニヒャクジュウニ、『ア』ニジュウキュウ)。

「あたらしい シホンシュギ」とはなんだろう。としよりが かねをもつというのとはかわらないが、ちいさいこどももゲンキというかんじのものだ。としをとると ネンキンがもらえてさらにゆたかになる というのは セイドをかえないかぎりかわらないが、ちいさいこどもが こづかいをもらってかそれなりにハンエイするというものだ。たしかに「こどもてあて」というのはある。そういうのをつかって、こどもがジブンのポケットマネーでガクヒをはらったり、ショクヒをはらったりということもそうかもしれない。ただ、ニホンジンのばあい、あまりこどもをダイジにしないブンカがあるらしいから、むずかしいだろう。

ジュウサン『む』 ヨンジュウサン

コウジョウなんかではニジュウヨジカンソウギョウをしている。なぜはじめたかはセイカクにはわからないが、コキヤクにはやくセイヒンをとどけたいからとかキカイをレンゾクでつかいつづけたいからとかなんだろう。そうするとシンヤにはたらく ニンゲンもヒツヨウになる。そういうひとがいないとニジュウヨジカンソウギョウはなりたたない。ショウテンもニジュウヨジカンエイギョウをしていたりする。いつでも かいにいけるのでベンリだ。しかし、なぜニジュウヨジカンガッコウがないのか。ニジュウヨジカンソウギョウやニジュウヨジカンエイギョウのキギョウではたらくロウドウシャがいるはずなのに。かんがえてみれば、シンヤにあつまるショウニンズウをあいてにジュギョウをやるのはヒコウリツである。だからそういうジュヨウは、オンライン (ツウシン) がみたすのであろう。

ジュウよん『む』 ヨンジュウキュウ

キュウジュウネンダイ、レイネンダイに「セルフサーブ」のみせがふえてきた。ちょっとしたショクドウにはいるといくらかでのみものを「セルフサーブ」することができるというメニューをえらべることがおおくなった。「セルフサーブ」によりテンインのロウリョクがへり、カカクもやすくおさえられるのだろう。そのメニューがはじまるまえよりイッパイのカカクはやすくなったとおもう。ただ、テンインにもってきてもらいたいときもあるので、センタクできるといいとおもう。

カテイでだすごみのブンベツも「セルフサーブ」になった。ゴミショリヒがやすくなっ

たというはなしはきかないが、そのブンやすくなっているのだろう。(ロウゴの) ネンキンなんか「セルフサーブ」にしたらうけとるブンがふえるか、ギョウセイのヒヨウがへるかもしれない(カクテイキョシュツガタのネンキンがあるが)。イリョウホケンもそうだ。ただ、ロウドウリョクかおかねをださなきゃならないが。

ジュウゴ『む』ロクジュウシチ

たしぎんってというのはカンタンなようにおもえるが、それは、どこかでひきざんがなりたっていないとフカノウだ。たとえば、ニヒャクエンのさかなをキヤクにうるとなると、「さかな」イッピキがひきざんされてかわりにニヒャクエンをうけとるわけだ。さかなはムゲンにあるようだが、やっぱりエサとかシゲンにかすがサユウされる。ジブンのこづかいをひきざんするというのはつらいが、ベツのものをたしぎんするためにしかたなかったりする。

ジュウロク『む』ナナジュウヨン

なぜガッシュウコクのひとたちが「ショウヒ」のケンインヤクとされるのか。それはタブンガッシュウコクのひとのいえがおおきからである(ここではブツリテキにおおきいといっている)。だから、ガッシュウコクのひととくらべてニホンジンのショウヒがすくない(ショウヒがのびなやんでいる)というのはやむをえないことだろうとおもう。ニホンジンのいえは「ちいさい」といわれるし、いえのおおきさのハンイでしかものはシュウノウできないからだ。そういうわけだから、「ものがうれない」というのをなげくのだったら、「おおきな」いえをたてることにキョウリョクしたホウがいい。

ジュウなな『む』ヒャクニ

「フケイキ」といわれるようになると、「ケイキタイサク」なんていわれはじめる。それでグタイテキになにをするかはよくわからないが、なにかにかねをつかうのだろうとおもう。セイジカの「トッケン」である「キセイカンワ」をしたというはなしはきかないからだ。ただ、それはケツカをもとめる(られる)のでコウカテキにつかわれるのだとおもう。

その「コウカ」をはかるのはなにかというと、カクシュトウケイのスウジや、「ケイキ」というブンガクテキともおもわれるカンネンのチョウサででるスウジだろう。ただ、「ケイキタイサク」というと、やっぱり、「ケイキ」のチョウサででるスウジがダイジになってくるのだろう。だから、そのチョウサにカイトウするダンタイやコジンにかねをばらまけば、「ケイキ」はうわむくだろう。そういうチョウサをでたらめにえらんだダンタイやコジンにやっているなら、ホントの「ケイキ」がハンエイされたものにちかくなるの

だろうが、チョウサするダンタイや コジンがコテイしているとすると、「ケイキ」がよくなったというケツカをしめすためには、そこにかねをつぎこむしかない。そうすれば、「[ケイキ]はうわむいた」とカイトウされるからである。それをヒハンテキなひとは「リケン」とよぶであろうが。

ジュウハチ『む』ヒャクハチ

このまえドウロコウジをしているのをみかけた。タブン、ギョウセイがフタンするのであろう。たしかにジーディピーをあげるためにはドウロはヒツヨウだ（●ジュウイチ『ア』ニヒャクサンジュウイチ、ジュウ『ア』ニヒャクニジュウゴ）。ドウロを いいジョウタイにしておけば、ジーディピーは あがりやすい（なぜならショウヒンがはやくとどき、とりひきがカソクされるからだ。）。でも、デンシツウシンにゼイキンをトウニュウしたとはきかないから、ギョウセイはゲンブツシュギなのだろう。やっぱりいまではとりひきに デンシツウシンをつかうから、それをエンカツにおこなえるようにすれば、ゲンブツのうごきはともかくジーディピーはあがる。まあ、ゲンブツがダイジだからいいが。

ジュウキュウ『む』ヒャクジュウイチ

きょうもジーディピーがうごく（●ジュウハチ『む』ヒャクハチ、ジュウイチ『ア』ニヒャクサンジュウイチ、ジュウ『ア』ニヒャクニジュウゴ）。なんでもジーディピーをニワリゾウカさせようというのがセイフのモクヒョウらしい。ということは、いままでよりもニジュッパーセント うごかすソクドをあげて、あいたジカンで やっぱりやりとりすれば ジーディピーはあがる。ただ、ヨユウができて、やりとりするとはかぎらない。チョククするというセンタクシがあるからだ。

じゃ、ジーディピーは あがらないのか。ひとつホウホウがある。ツウカにショウヒキゲンをつけてしまうのである。そうするとつかうしかないので、ジーディピーはあがるとおもわれる。ただ、そうすると、ショウヒキゲンがないツウカにかえてつかいはじめるだろうからコウカはゲンテイテキだ。やっぱり、ニジュッパーセントおおくはたらかなければなのだろうか。

ニジュウ『む』ヒャクジュウサン

ニホンのみずのモンダイを かかえているといえる。みずブソクだからそういうかという と たしかにそれもあるのだが、いわゆる みずブソクはヘンドウする。そういうことでなくて、コウゾウテキなみずブソクである。それは、ショクリョウのユニユウにあらわれている。

ショクリョウジキュウリツがちいさくなったとってたびたびはなしになる（●『ア』

ヒャクロク)。ジキュウリツをおおきくするにはノウギョウをするようだ。しかし、みずブソクであればノウギョウはできない。だから ゲンジョウでは そうカンタンにジキュウリツはカイゼンしない。つまり、すでにショクリョウをユニユウしなければならないほどの コウゾウテキなみずブソクなのである（みずをユニユウしているとかんがえてよい）。だから、みずの ジョウズなりヨウをしないと ジキュウリツがあがらないし、ショクリョウのセイサンがガイコクだのみになる。だから、みずをジョウズにつかうのはダイジなのだ。

ニジュウイチ『む』ヒャクニジュウイチ

ジユウボウエキジョウヤク（サイキンはエフティエーということがおおいようだが〔フリートレード トリーティである〕）などにノウカはギモンをもっているのだろう。たしかにカンゼイがなければ、そのしなものがやすくてにはいる。しかしながら、カイガイからはいつてくるやすいノウサンブツにおされて ノウカが ダゲキをうけていいのかともいえる。カイガイから ノウサンブツをユニユウして、コクナイでつくったコウギョウセイヒンを ユシュツしていればいいというかんがえかたもある（ショウヒンサクモツをタリョウにつくって、ショクヨウのサクモツをすこししかつくらないのはよくないとわたしがちいさいころにおそわったことがある。）。なんかのリユウで ユニユウができなくなったらうえじにである。

むかし、あぶらをもとめて ニホンギンは トウナンアジアにシンコウした。セキユがサンシュツされるからだ。セキユがないとふねがうごかない。コウクウキもうごかない。だからセンソウをするときめたら、ただちに セキユをもとめて ナンシンした。なぜナンシンせざるを えなかったか。それは オウベイが ニホンへのユシュツキンシソチをとったからだ。それとおなじように、ショクリョウのユニユウがとまれば、ニホンギンはまたセキユのとときとドウヨウに、にしなり みなみなりにシンシュツするようになりかねない。

まえのセンソウでは、オウベイジンや シンシュツサキのヘイシがたまをうってニホンギンをコウタイさせようとした。しかし、ショクリョウがフソクのばあいはニホンギンをたおすには「たま」はいらない。ただくにやジンチをかたくもってれば、そのうちニホンギンはうえてたおれていくのだ。ギャクに せめこまれても うえがあってはまもりきれない。ショクリョウジキュウリツ（●ニジュウ『む』ヒャクジユウサン、『ア』ヒャクロク）がヨンわりといわれている。だからゲンジョウでは、そういうジョウキョウになってもヨンわりは いきのこる。それでも、コクナイセイサンをギセイにしてユニユウしろというのか。むかしは まかなえていたはずである。

ニジュウニ『む』ヒャクニジュウニ

ケイザイのことをかたるとき、とめるものから まずしいものにと「とみ」がこぼれると

いうことをいう。それはなくはないとおもうがむずかしいとおもう。ゲームセンターにコインをいれて、そのコインのアツリヨクでほかのコインをおとしよりおおくのコインをカクトクするというゲームをゴゾンジだろうか。なかにはジョウズな（トウシガクよりもカクトクガクのホウがおおい）ひともいらっしゃるだろう。だが、タイテイのひとは、トウシガクのホウが、カクトクガクよりもおおきくなってしまう。

ジッサイのゲームでそうなんだから、「とみ」がこぼれることをキタイしても、「とみ」のイチブがとどくまえにおおかたの「とみ」はだれかにぬかれてしまうのだろう。あのゲームはニンゲンシャカイのホンシツをおしえてくれたとおもう。ほかにケイヒンをつりあげるゲームもあった。やっぱりこれも「とみ」がぬかれるようだ。だから「さかなつり」のホウがいいかといえば、「ギョギョウケン」がどうのとやっぱりぬかれるのである。

ニジュウサン『む』ヒャクサンジュウイチ

ゴリンチュウだから、ニホンジンセンシュがとったメダルのかずをホウコクしていたりする。くにベツでみると、やはりアメリカガッシュウコクがもっともとったメダルのかずがおおい。これはわかるようなきがする。タイコクだから。そしてチュウゴクもおおい。これもタイコクになってきたからわかる。ジーディピーでいうとこのニコクのつぎはニホンがあらわれるはずである。しかし、メダルのかずではエイコクがあらわれ、さらにほかのくにがニ、サンあらわれる。ジーディピーはつまるところニンゲンのロウドウだから（サイキンはキカイやコンピューターがふえているだろうが）、ジーディピーがたかいほどいいしごとをしているはずである。だから、ゴリンでもニホンのセンシュはカツヤクしそうなものだ。でも、なぜゴリンでとったメダルのかずがゴイイカなのか。それは、ニホンのホントウのジーディピーがホウコクされているスウジよりすくないからではないか。くわしくいうと、ニホンのホントウのジーディピーはホウコクされているハンブンのスウジテイドで、あとのハンブンは、おかねをひだりからみぎにながしてムリヤリスウジをあげているのではないかと。そんなだから、ケイキタイサクをしないとスウジがひどくおちてしまうのでそれをやめられないのではないか。たてもはやドウロをつくるのではなく、ジツはおかねをひだりからみぎにまわすことがジーディピーをあげるためカンゲイされているのかもしれない。かりにエイコクのジーディピーがコウヒョウされたスウジよりおおきいとしても、エイコクジンはよくはたらき、ニホンジンはエイコクジンよりははたらかないかタンにニホンジンのウンドウノウリヨクがひくいといえそうだ。

ニジュウよん『む』ヒャクサンジュウロク

「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないから「ピンボウ」なのか、「ピンボウ」だから「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないのかわからな

い。イッパンテキには「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないことと「ビンボウ」なのはカンレン（ヒレイ）するだろう。しかし、これらのどちらがさきにハッセイするのはあまりセツメイされない。

あるひとは「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないから「ビンボウ」というだろうし、あるひとは、「ビンボウ」はつぎのセダイにケイショウされる（つまり「ビンボウニン」は「ビンボウ」のまま）という。だから、「ビンボウ」をカイケツするために、「キュウリョウ」をあげようというはなしはよくきく。そうすると、「キュウリョウ」があがったから「ビンボウ」ではないというロジックだ。しかし、「ビンボウ」だから「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないといういいかたはあまりしないし、「キュウリョウ」をあげずに「ビンボウ」をカイケツするようなはなしはあまりきかない。

わたしがおもうのは、「ビンボウ」なひとは ショクセイカツがまずしくながいロウドウジカンに タイオウできずにいて、したがってキュウリョウがすくなくなってしまうというジョウキョウがハッセイしているのではないかということ。それをカイケツするのは ショクセイカツをカイゼンするのがいいが、「キュウリョウ」がすくないと、ほかのセイカツヒもあるから、なかなかカイゼンしにくい。だから、「ビンボウ」と「キュウリョウ」がすくないというアクジュンカンがハッセイしてしまう。そこに「キュウリョウ」をあげるようなジョウキョウをつくると、「ビンボウ」なひとの ショクセイカツがカイゼンされるカノウセイがでてくる。しかし、そのあがったブンをテレビコウニユウにつかってしまうと、ショクセイカツはカイゼンされない。だからまた「ロウドウジカン」がすくないままになる。そうすると、そのひとをコヨウしているキギョウのフタンだけがふえる。それがわるいようにつづけば、キギョウのギョウセキがアッカして、サイアクのばあい トウサンしたり、ジンインサクゲンにふみきって、そのひとは カイコされるかもしれない。それではその「ビンボウ」なひとはさらに「ビンボウ」になってしまう。だから、キュウリョウがあがったブンをそのひとの ショクセイカツのカイゼンにつかわれるのなら（ショクセイカツのカイゼン、ロウドウジカンのエンチョウ、キュウリョウのジョウショウと）「ビンボウ」なひとの「ビンボウ」のカイゼンにやくだつが、ほかのなにかにつかってしまうようだとキギョウのフタンばかりがふえる。だから、ひとのリョウシンやリョウシキをしんじないのだったら、タンジュンに「キュウリョウ」をあげるのは さけるべきだろう。

「ビンボウ」なひとは「ビンボウ」なままだといういいかたもあるが、ニホンジンは センソウにまけて あまりゆたかでないジョウキョウからセンゴシュツパツした。かならずしも「ユウフク」になったとはいえないだろうが、それなりにセイチョウしたといわれる。チュウゴクも「ゆたか」になってきているという。だから、「ビンボウ」をカイゼンするのは、やりかたをまちがえなければ カノウだとおもう。

ニジュウゴ『む』ヒャクサンジュウキュウ

なぜサバクがあるか。ネンリョウなどに きを きりだしてつかい、それがテツテイテキ

におこなわれ、サバクカしたともいわれる。サバクになってしまったら、そこにすむことはコンナンだ。いってしまえばカイシャのトウサンみたいなものだ。そのトウサンしたカイシャをたてなおすのはむずかしい。そのカイシャを てばなして ベツのところにつりすんだりするだろう。しかし、そんなことばかり やっていたらトウサンしたカイシャばかりになってしまう。だから、みどりがたもてるようにセイカツするのがたしだいだろう。また、みどりをサイセイできるならしたホウがいい。

ケイザイが コウチョウかどうかをみると、ジーディピーやシツギョウリツばかりをみるのではなく、そうしたメンをみるのもダイジだろう。いってみれば、イチジテキなセイサンリョクをみるのではなく、チョウキテキなケイザイリョクをみるわけだ。サバクカがシンコウしているとあれば、もうそのくにはもたないだろうなどと。

ニジュウロク『む』ヒャクヨンジュウヨン

ジンルイシのショキには「アイ」はなかったようにもおもう。「アイ」がなかったというよりも、「アイ」というコンセプトがなかったんだらう。「アイ」があればセンソウはおきないかもしれないが、レキシをみると たびたびセンソウがおこっている。トクに、ニジュッセイキのセンソウはおおきかった。だから セカイタイセンなどとよばれる。じゃあニジュッセイキのひとは「アイ」がすくなかったのか。ヘイワなジダイにくらべて「アイ」がすくなかったかもしれない。なぜニジュッセイキのひとは「アイ」がすくなかったのか。ジンルイやジンルイの「アイ」は シンボしてもよさそうである。

ひとついえそうなことは、「アイ」を「かね」にかえるようになったのではないかということ。いってみればシホンシュギのヘンカである。ウェーバー（ドイツのシャカイガクシャ）さんはキンヨクテキにはたらく キリストキョウのカイカクハが シホンシュギをハッタツさせたといったが、そのケツカは たしかにシホンシュギをハッタツさせたかもしれないが、そのひとたちが くらすくにはショクミンチをもつようになった（ていた）。そこからゴウインなサクシュもしただらう。それなら、キンヨクテキなひとはたらきというよりも、カクトクした ショクミンチのとみが シホンシュギをゆたかなものにしたんだらう。サクシュがあるようなケイザイタイセイは（そのタイセイをシジするひとは）「アイ」があるとはいわない。

なぜ ショクミンチで サクシュしなければならなかったか。ひとつはロウドウケイザイのヘンカだとおもう。つまり コヨウされるひとの「アイ」、わかりやすくいうと、ジカンをコヨウシャにあづけ、かわりにかねをうけとるという「アイ」を「かね」にかえるロウドウがタスウをしめるようになり、また、そのキギョウタイは、ほかのキョウソウアイテときそうようになっていたのだらう（コジンケイエイのショクもあっただらうが、すくなくなっていくのではないか）。そうすると、われさきにとほかのチホウでサンシュツされるケンエキをカクトクするようになるだらう。イッポウ、コジンショウ（ジエイギョウシャ）は「アイ」をたもてていたともおもえる。ロウドウシャをコヨウするキギョウタイのショウウシャはあつめた「アイ」で ゆたかなセイカツをおくったかもしれないが（だだし、かねは でていった）、ヒコヨウシャは「かね」をうけとるかわりに「アイ」

がすくなくなる。つまりあれるのである。ダイタイ、キギョウのショユウシャよりヒコ
ヨウシャのホウがおおいから、かずのモンダイでシャカイはあれていく。キョウカイも
ちからをうしなっていたときく。

ニジュッセイキには ミンシュシュギを とるくにごおおかつたからそれはセイジにハン
エイされる。だから、センソウがおきたのだろう。ハンセイとして、「アイ」はあるテ
イドに「かね」にかえないようにとか、いくらシャカイがあれてもセンソウをしないよ
うにとか あれたシャカイを なだめるしくみをつくるようにとかが いえるとおもう。

ニジュウシチ『む』ヒャクヨンジュウゴ

ちょっとまえまでは からになった のみもののビンをみせにもって行って、ヘンキン（ビ
ンダイ）をうけとったものだ。しかし、サイキンは（ケースでかうビールビンなどは まだ
それをやっているかもしれないが）カンドとか、ペットボトルにのみものをつめてうっ
ている。たしかに それなら ユソウチュウにわれたりもしないし、かるいのだろう。それ
らは ごみとしてリサイクルコウジョウにおくられるらしい。だが、そうしてしまうと、
ごみがふえる。またモンダイなのが、ジュウタクなども イッカイばらしてあたらしいの
をつくらうとなる。それは カンや ペットボトルでそうしているのだから すんなり うけ
いられるのであろう。むしろ、それしかかんがえつかないかもしれない。

しかし、ヨーロッパの いしづくりのたてもものなどは ジュウミンとカグをいれかえれば
ほぼいつまでもつかえるだろうし、モクゾウのジュウタクもながくつかうらしい。そう
たびたび ばらして あたらしくするんじゃヒヨウもかかるから おかねもたまらない。そ
ういう すててあたらしくかうというには きをつけよう。コーヒーや シャンプーなどは
つめかえシキのものがあるから そうしている。ペットボトルがうれば、ドケンやがも
うかる ではしょうがなさそうなのである。

ニジュウハチ『む』ヒャクロクジュウイチ

しごとをする。おかねをかせぐ。ここまではいい。フツウのロウドウシャのすがたであ
る。そのおかねをチョキンにまわすと どうなるか。むかしはともかく、いまはテイキン
リなので、イッパーセントもリシがつかない。トウシにまわすとどうなるか。ゴパーセ
ントでまわしたジュッパーセントでまわしただと、ジュウネンでガンキンがニバイにな
る。なんのことはない、そういうことなのだ。

ジブンの しごとをこなして キュウリョウをもらうだけではイチバイのしごとである。し
かし、おかねにもかせいでもらえば、もっとセイカツがゆたかになる。だから、いまの
ジダイはチョキンではだめなのだろう。そのおかねのウンヨウのしかたで セイカツにさ
がでるのだ。

ニジュウキュウ『よろこぶゲンシジン（イカ、『よ』）』ヨン

いつからだか、「スパゲッティ」や「ピザ」がはやりだしたような気がする。また「ラーメン」とか「パン」もなにかどうれているような気がする。しかし、ひるごはんに、スパゲッティをたべたロウドウシャがテッコツをもちあげられるきがしないし、ひるめしにラーメンをたべたカイシャインがモクザイをタクサンはこべるとはおもえない。

ジツはそうやって、ニホンケイザイは、ちからしごとがゲンショウして、デスクワークのわりあいふえたのかもしれない。「シヨク」のヘンカがさきか、「シヨクギョウ」のヘンカがさきかはわからないが、すくなくともタイリヨクをつかわないしごとがふえているんだろう。このケイコウはバブルのあたりから（パンとラーメンはまえからよくあった。）つよくなり、いまもつづいているようだ。きつくいえば、ニホンジンのヒンジャクカがすすんでいると。

そのころから（ケイザイの）テイセイチョウがはじまった。そういうシヨクリョウをこのみつづけるとしたら、（ケイザイ）セイチョウはむずかしいとおもう（やはりタイリヨクショウブであろう）。むかしのセンソウは「シヨク」にこまったらしいが、そのケッカだろう、たたかいつづけられなかった。いまはたべるものがあるとはいえ、エイヨウカのひくいものでは、たたかいつづけるのはむずかしいであろう。

サンジュウ『よ』ハチ

ニホンジンにとって、このふゆはさむいものになりそうである。それはあぶらのねだんがあがるだろうからである。そうするとデンキリョウキンもあがる。くにのタンイでみれば、ユニウガクがふえてボウエキあかじがでかねない。それはつまりおおきみたコジンのカテイがあかじになるということである。これはハイキンテキないかたなので、そんなにくらしむきかわらないカテイもあるだろうが、あまりおかねをもっていないカテイにとってはシカツモンダイとなる。ヘンサチでいうとゴジュウイカのカテイがあかじになるということだ。つまり、ニホンのゼンカテイのハンブンが「あかじ」になるわけだ。だからネンリョウをダイジにつかわなければならない。それができなければあかじだ。

わたしはあまりさむいときは、コートきてねることにしている。チャンチャンコならワフウだが、あまりうっているのをみかけない。これがあつたかいので、ねるときにダンボウはヒツヨウない。ニツチュウにつかってもよい。ダンボウダイがセツヤクできる。とはいえ、こたつをつかっている。ヘヤゼンタイをあたためるとねつがムダになる。テンジョウまであつたかくするヒツヨウはないからだ。ブンテキにあつたかければよい。あとエネルギーをつかうのがフロだ。シャワーならつかったブンだけであるが、ゆぶねをつかうとヒャクリットルイジョウをわかすことになる。だからわたしはキョクリョクゆぶねにははいらぬ。みずあびですませるのである。

こうしたクフウで、さむいふゆをすごせばあかじはへっていく。ドリヨクすればいいのである。くにのボウエキがあかじということは、コクナイのいえやキギョウのソウワが

あかじということだ。なかにはくろじのいえやキギョウもあるだろう。しかし、ゴジュッパーセントイジョウのカテイやキギョウがあかじだと、もはや「チュウリュウ」とはいわない。

いまのところシサンがあるだろうからモンダイにはならないが、あかじがつづけばやがてそれもつきる。たとえばイッチョウエンのボウエキあかじだとしたら、ダイタイひとりあたりイチマンエンのあかじだということになる。キュウリョウがサンジュウマンエンあれば、たいしたガクでないようだが、まみずのイチマンエンなので（ボウエキはコクサイトリヒキだからシンヨウのあるツウカでおこなわれる。キュウリョウはかならずしもそうではない。）おおきいとおもう。キュウリョウをはらってくれるだれかもイチマンエンのあかじだから、さきざきキュウリョウはへるだろう。

もしそれでも「チュウリュウ」なんてことばをつかうとしたらそれは「ビンボウ」のことだ。ネンリョウのセツヤクもそうだがほかのムダもはぶいていかなければならない。わたしはみずのセツヤクもしているが（●『む』ヒャクニジュウロク）、もっとムダをはぶいていかなければならないとおもう。いまは「フケイキ」ではなくて「ビンボウ」なのだとニンシキをあらたにしなければならぬ。

サンジュウイチ『よ』ニジュウキュウ

ニジュッセイキはアメリカガッシュウコクがコウギョウセイサンのメンでつよかったといわれる。ニジュッセイキコウハンになって、ニホンがそれにつづくようなハッテンをした。ニジュウイッセイキにはいとチュウゴクである。ニホンでもチュウゴクセイヒンがあふれることになっている。しかし、チュウゴクのコウギョウハッテンは、これイジョウカノウなのだろうか。わたしはむずかしいとおもう。

ニホンのジンコウはイチオクニセンマンテイドで、かりにコクミンすべてがコウギョウセイサンをしてもななジュウオクのチキュウのジンコウすべてにセイヒンをうってもひとりロクジュツコつづくことができる。しかし、チュウゴクでそれをやると、ジンコウがジュウサンオクだからゴコしかつくらなくてよい。つくりすぎてもかいてがないし、カカもさがる。それではさすがにたべていくのにクロウするだろう。だから、チュウゴクでもサービスギョウのヒリツがあがるのではないだろうか。

サンジュウニ『よ』サンジュウ

あるときから、シジョウにチュウゴクセイヒンがでまわるようになった。チュウゴクセイフが「カイホウ」ケイザイをうちだして、キュウジュウネンダイに、センシンコクのキギョウが、チュウゴクホンドにコウジョウをつくったことによる。ジンケンヒがやすいからチュウゴクにコウジョウをつくるが、ジッサイにつくるのはニンゲンでなくキカイをいれてやっているとおヤジからきいたことがある。たしかにそれならどこでつくってもヒョウはそうかわらないだろう。むしろチュウゴクのケイザイがうわむいたときのシジョウをキギョウはねらっていたのだろうといまではおもう。

レイネンダイから、ニホンのシジョウにでまわるチュウゴクセイヒンがふえてきた。それまでガッシュウコクセイヤトウナンアジアセイだったヨウフクが、チュウゴクセイだ

らけになった。ジュウネンダイになると、やすくうられているものはみんなチュウゴクセイだというニンシキができるようになった。デンキセイヒンもそうだ。ダイタイやすくうられているものはチュウゴクセイだ。ザッカもそう。

ニホンセイフはブッカをあげたいとおもっているようだが、やすいチュウゴクセイがはいってきては、そうカンタンにあがるわけではない。ツウカキョウキウリョウをふやせばブッカはあがるというのは、とじられたケイザイユニットのなかでというジョウケンつきだろう。しかし、いまはエンやすがすすんでいるから、ユニウヒンがたかくなったといえなくもない。だが、チュウゴクゲンとのヒカクでエンがさげなければ、やっぱりブッカはあがらないだろう。チュウゴクがケイザイハッテンして、ジンケンヒがあがったからキギョウはほかのくににコウジョウをうつしそうなものだが、やっぱりチュウゴクシジョウがねらいだったのだろう。あまりニホンシジョウでのチュウゴクセイヒンがへっていないのがゲンジョウだ。

サンジュウサン『よ』サンジュウハチ

セカイのとみのハンブンを なんパーセント（ひとけた）のかねもちがにぎっているといわれることがある。それにタイしてけしからんということではできるが、それだけそのかねもちがいいしごとをしたのだからしょうがないともいえる。なにもしないでおかねをかせげるわけではないのである。そういうジョウキョウがあるから、そういうとみをショミンにこぼしあたるみたいなはなしをしたりする。でも、やっぱりゲームセンターのコインゲームのように（●ニジュウニ『む』ヒャクニジュウニ）そうカンタンにはこぼれおちるわけではない。どうすればこぼれおちるだろう。どこかにおかねをおとせば、ナンニンかがひろっておわりである。それなら、こぜにをタクサンおとせば、ケッコウなはずのひとがひろえるかもしれない。しかし、そのぼにいるひとしかひろえない。

あるキセイをカンワすれば、そのカンワされたギョウシュにひとびとがサンニウする。それでセイコウすれば、それにカンレンするギョウシュもうるおうのである。これはあらたなかねもちのつくりかただが、そういうチャンスをあたえるのもいいかもしれない。ビョウドウにケツカをあたえると、あまりはたらかないひとが、はばをきかせて、やるきのあるひとやるきをなくしてしまう。かねもちのやるきをうばえば、とみはいきわたるかもしれないが、それはどうなのか。ゴルフのハンディキャップのようなものをあたえたとしても、やっぱりまたおかねをかせいでしまうようにもおもえるのである。しかし、ゼイのルイシンカゼイとはそういうことある。

サンジュウよん『よ』ヨンジュウ

シャカイシュギはシッパイといたり、サイキンではきかないが、シャカイシュギはいいといたりする。だがホントウにシャカイシュギはシッパイなのだろうか。シャカイシュギはシホンシュギとヒカクされたりするが、コンカイは、シホンシュギはダイサン

のかんがえかたとしておく。

センシンコクではイッパンテキにシジョウケイザイである。シジョウにはキホンテキにジウにたちいれる。そしてジウにバイバイできる。それはニンゲンがものをヒツヨウとするからそのジウヨウをみたすためである。ものがなかったらニンゲンのセイカツがなりたたない。シャカイシュギのばあい、ハイキュウなどがあったりする。そうするとセイカツができるわけだ。ただハイキュウにあるイガイのものはてにはいらない。そもそもつくっていないかもしれない。ハイキュウするシュタイが、なにかをユシュツして、ハイキュウしてほしいとキボウのあったものをユニウできれば、ハイキュウをうけるようなやりかたでもゆたかにくらせるだろう。しかし、そういうことをつづけたタイコクは、ハイキュウセイドをやめたときく。そしてシジョウケイザイをドウニウしたのだ。そのタイコクがシャカイシュギのキシユであったため、そのタイコクがやめてしまうと、ほかのちいさいくにもそれにつづくだろう。そういうわけでシャカイシュギをとるくにはすくなくなったはずだ。

そういうジョウキョウからシャカイシュギはシツパイといえるか。そうではない。ジウシジョウシュギはモチロンつよいが、シャカイシュギもまたつよいのである。そのシャカイシュギとはなにか。カイシャである。カイシャのジウギョウインは、しごとをしてキュウリョウをうけとる。それはハイキュウをうけとるシャカイシュギのセイドににている。にているというのは、ハイキュウをうけるリョウがまちまちであるからだ。

さてそのシャカイシュギにちかいカイシャはかわるだろうか。チンギンなどがかわった(ノウリョクキュウ)カイシャもできたが、そうはかわっていないかもしれない。また、ヒセイキコヨウなどロウドウシャのありかたもかわったメンもある。しかしながら、カイシャがジウシュギにかわったというはなしはきかない。

ロウドウシャのジウシュギはふえたかもしれないが、ハウシュウをうけとるのにクロウするブン、シャカイシュギをもとめるひともあろう。だからジウシュギとシャカイシュギはタイリツするかはともかく、まだまだジウヨウなロンテンであろう。シホンシュギというかシホンは、それぞれのセイサンカツドウのおおきさであろうか。

サンジュウゴ『よ』ヨンジウゴ

ひとりあたりジーディーピーはトシコッカのホウがたかくでる(●ジウイチ『ア』ニヒャクサンジュウイチ)とシテキした。ジンコウがミツシュウしているし、とりひきのキヨリがみじかければヒンドもあがるだろうからだ。だからフツウのくにのスウジとくらべるのはテキしていないかもしれない。そこでジーディーピーをヒカクするために、ミツドわりジーディーピーをかんがえた。

これはくにのなかのヘイキンテキなひとりあたりリョウイキ(トシでもノウチでもない)(ジンコウわるメンセキ)でひとりあたりどれだけセイサンされているかをしめす。いいかえれば、くにのひろさをイチヘイホウキロメートルとしたときに、そのひろさのなかでのひとりあたりどのくらいセイサンするかのシヒョウだ。つぎのスウシキでセイサンする。

ひとりあたりジーディーピーわるジンコウミツだ。これでトチをふくめてひとりがどのテイドセイサンしているかがわかる。このあたいがひくいばあいのひとつのリユウはトシカがすすんでいることであろう。このあたいがたかいとヒコウリツかもしれないが、それもゆたかさではある。かならずしもひとはトシにすみたいとはかぎらないのである。

サンジュウロク『よ』ロクジュウロク

「やすい」ものはミリョクテキである。そういうものをかえば、おなじキンでもよりのしめる。おおきなやすうりテンにまけたから、ジエイギョウのちいさなショウテンがつぶれたともいわれる。たしかにジエイギョウのそういうみせは、おおきなみせほどやすすくない。おなじようなショウヒンをあつかっているなら、おおきなやすうりテンにいつてかおうとする。それはわかる。

しかしながら「やすい」ことはそんなにトクなのか。「やすものがいのぜにうしない」ともいう。ひとつのみせでショウヒンがやすくなると、ほかのみせもやすくしようとするかもしれない。そうしないとうれなくなるからだ。そうすると、そのショウヒンジタイのねだんもやすくなる。やすうりテンがやすくしたブンのフリエキをかかえれば、それはそのみせだけのモンダイだが、ほかのみせもやすくして、そのショウヒンをうろうとすれば、メーカーからのしいれねをやすくしようとするだろう。そうするとメーカーもねびきしてフリエキをこうむることになる。それがテイドをこえると、メーカーやショウテンはあかじのブン、ジンインサクゲンしたり、ジュウギョウインのキュウリョウをさげたりすることになる。

それはショウヒンをかうホウにはカンケイないだろというかもしれないが、メーカーもショウヒンのヒンシツをさげるかもしれない。そうしないとたちいかないからだ。そうすると、やすいショウヒンをかおうとしていたひとも、ヒンシツがさがったとおもうだろう。この「ショウヒン」がショクリョウヒンだとしたら、やすくかおうとすると「めし」がまずくなるというケツカになる。だから、うまいめしをたべたきや、やすいものをさがさないホウがいいとなる。

サンジュウなな『よ』ロクジュウシチ

やすうりアツリョクがシャカイゼンタイにかかっていると、ヒサンなジタイになる。それを「レツカシャカイ」とよぼう。「デフレ」がとまらないとかいうが、そういうジョウタイのことである。さきにのべたように、ショクリョウがそういうジョウタイになるとヒサンだ。マイニチ「まずい」めしをたべなければならぬからだ。コウギョウセイヒンならタショウヒンシツがわるくても（ジコがおこるのはロンガイだが）、それほどこまらないが、ショクリョウだとこたえる。そうすると、「まずい」めしはいやだからと、ショクリョウヒンのねだんだけはあがるかもしれない。

ことわざには「やすかろうわるかろう。」ともある。シャカイゼンタイが「レツカ」する

のでなく、「やすい」ものも「たかい」ものもかえるセンタクのジユウをのこしてほしいとおもう。あるひとは「まずい」ものばかりたべるかもしれないが、それはそれぞれのジユウだといえるようにすればとおもう。

サンジュウハチ『よ』ハチジュウキウ

わたしはオンガクをつくったりする。もうガッキやサッキョクをはじめてニジュウゴネンイジョウになる。バンドブームにショックハツされてはじめた。ただそれでセイコウすることはむずかしいこともわかっていた。だからほどほどにやっていたカンがある。

ただ、いいキョクをつくればうれるのだらうともおもっていた。だからプロのシィディのハンブンのねだんで、いいキョクをテイキョウすれば、あるテイドうれるんだらうとおもっていた。ただそれはあまいかんがえだときづいた。それはシィディのジッセイカカク（テイカではない。）をケイサンしたからわかった。

イチニチにイッカイきくシィディがあるとする。それはネンカンでサンビャクロクジュウゴカイきかれるケイサンになる。イッポウ、イチネンでイッカイきかれるシィディもあるだらう（ゴネンにイッカイきくようなシィディはケイサンからはぶく。）。それはネンカンでイッカイきかれる。そのイチニチイッカイきかれるシィディをジュウマイもっていたとする。そうするとイチマイでサンビャクロクジュウゴカイきくから、ジュウマイでサンゼンロツピャクゴジュウカイきくことになる。イッポウイッカイきくシィディをヒャクヨンジュウマイもっていたら、イチかけるヒャクヨンジュウでヒャクヨンジュウカイきくことになる。

ここでシィディのねだんをイチマイサンゼンエンとカテイする。イチニチにイッカイきくシィディはネンカンサンビャクロクジュウゴカイで、これをサンゼンエンとすると、それがジュウマイあるからサンマンエンとなる。イッポウイチネンでイッカイきくシィディはヒャクヨンジュウマイあつてもサンビャクロクジュウゴカイにタツしない。それをイチマイブンケイサンするとサンビャクロクジュウゴがサンゼンだから、イチマイはハッテンニイチエンになる。これがヒャクヨンジュウマイだからセンヒャクヨンジュウキウエン。

これをヘイキンすると、サンマンたすセンヒャクヨンジュウキウわるヒャクゴジュウでイチマイあたりニヒャクナナテンロクエンとなる。つまり、シィディのあるソウテイでのジッセイカカクはヘイキンテキなものイチマイニヒャクジュウエンとなる。だから、プロのハンガク（センゴヒャクエン）にカカクをセツテイすればうれるかというところというわけではないということがわかる。なにしろプロ（シィディをだしているのがプロばかりとして）のヘイキンテキなものシィディのねだんがニヒャクジュウエンなのだ。だからまあまあのかんじだとニヒャクジュウエンでうりだすのがただしいだらう。そのニヒャクジュウエンでシィディをうってリエキをだせるのが「プロ」ということになる。フツウそうはできないだらう。でもそれができないのだったら、シュミでオンガクをやるにとどめておいたホウがいい。そういうことだ。

サンジュウキュウ『よ』ヒャクジュウヨン

ものをもつとへやのなかにそれがたまっていく。ものをかいすぎるとうごけるハンイがせまくなる。イチジわたしはホンをためていたが、よんだものはショブンするようにした。やはりかたづかないとこまるのである。どうすればいいか。リソウテキなのは、つかうときだけホンがあることである。つかわないときはなくていい。どこかでかりられればいいが、トショカンにおいていないホンもある。テレビなんかもそうだ。みたいバングミだけみられればいい。テレビジュゾウキもいらなかもしれない。そういう「パーユーゼージ（つかうブンだけ）」にすれば、むだなものがふえないし、ベンリだとおもう。

よんジュウ『よ』ヒャクニジュウゴ

サンジュウネンほどまえ、わたしは、はねだクウコウをリヨウしていた。いま、おもいだしてみると、ニホンはシャカイシュギだったのではないかとおもう。なぜなら、「コウキュウヒン」があのかうにはなかったような気がするからだ。サンゼンエンのコウキュウベントウもなかったし、ブランドものなにかがうられていたともおぼえていない。そのかわりに、ショミンのたべもの「やきそば」やニホンジンがクフウしてちいさくなったブンクなどがうられていた（あるときは、カードがたのボールペンがあった。）。コクナイセンがおもとはいえ、かねもちもリヨウしそうだが、そんなかんじだったとおもう。もっとも、いまはたてものがかわってしまったが、タショウコウキュウヒンをあつかうようになったのだろうか。「カクサ」とかいているからあつかうようになったのだろう。そうでなきゃ、まだ「シャカイシュギ」のままだ。もっとも「シャカイシュギ」のいごちのよさはあるだろう。ステーキをたべているひとのよこで、すうどんをたべなくてもよいのだ。そういうこともかんがえるから、「コセイ（●『よ』ヒャクジュウなな）」というタンゴでごまかすかもしれない。シホンシュギだったらそういうしかない。

よんジュウイチ『よ』ヒャクサンジュウイチ

なにかのしくみを「かねもち」や「ピンボウニン」にあわせるとどうなるか。あるものごとのブンブはセイキブンブではかれることがある。カズをジョウゲにとったベルがたのグラフである（ヘイキンがもっともおおい。）。ニホンだと、ガッコウのセイセキをそのリクツをつかってはかる。ヘンサチというやつである。ベンキョウができるひとは、できるほどかすがすくなく、またできないホウも、できないほどかすがすくない。ヘイキンからキヨリをはかるとヘンサチである。

それなら「かねもち」や「ピンボウニン」にセイサクをあわせると、そのギャクのひとたちからのキヨリがおおきく、またヘイキンからのキヨリもあるから、ソウタイとしては「ムダ」がおおそうである。じゃあどうすればいいかというと、「ヘイキンテキなひと」

にあわせるとムダがすくなくなる。それでいいかはともかく、それならムダはすくないのである。ニホンではルイシンカゼイといって、ビンボウなひとからはすくなく、かねもちからはおおくゼイキンをとっているが、ヘイキンテキなゼイリツにすることもできるだろう。

セイヒンもヘイキンテキなねだんにすることもできる。しかし、ヒャクエンでショウヒンをかえるみせがはやっているから、ヘイキンテキなねだんではだめなのかもしれない。セイヒンも「ヘイキンテキ」なものをイッコタイリョウにつくるよりも、「ビンボウニンむけ」と「ヘイキンテキなひとむけ」、「かねもちむけ」とつくるホウが、コウリツがよさそうだ。ベツにイチリツにするヒツヨウはない。しかし、「テイカカク」なものがうれるようなきがする。そういうのをシュクショウがたケイザイというのだろう。ジツサイのとりひきがそうであるかはともかく、だれかや、だれからのシンリには、そのコウゾウがあるのである（●『よ』イチ）。カイキウセイにしてしまえば、みっつのセイヒンをつくれればいいが、ニホンではなかなかなじまないのだろうか。

よんジュウニ『よ』ヒャクヨンジュウサン

シャカイシュギシャカイをおわらせたかったら、そのシャカイシュギシャカイのひとにうまいものをくわせればいい。そのひとがそのうまいものはなしをはじめると、そのシャカイでうわさになって、そういうものをたべたいというはなしになる。そういうものは、たかかたりするから、それをたべたひととたべていないひとのカクサができてくる。それをカイショウしようとして、そのショクリョウをやすくしようとするかもしれないが、それはザイセイテキなフタンになる。それがつづく、セイフフサイがふくらみ、やがてセイフはハタンする。そうするとモンダイのたべものをヨウゴするひとと、シジしないひとにわかれて、シャカイシュギシャカイはホウカイする。

キョウソウをドウニューしようとか、しないでよいといいはじめる。ニホンのシャカイもハチジュウネンダイおわりの「ギユウニク」で、シャカイシュギがおわたのただろう。だから、ジショウシャカイシュギシャがシンヨウできるかをみやぶるには、どんなものをたべているかをきくといい。タブンなまぐさじゃつとまらないはずだ。

よんジュウサン『よ』ヒャクゴジュウロク

コウカンをフクザツにしていくとムダがしょうじる。しかし、そのムダがベツのしごとをうむ。わかりやすくいえば、しごとのあいだ、こどもをあずかってほしいとか、すぐにたべられるショクドウがほしいとかである。ショウニンはコウカンのサイのムダでたべるためのおかねをかせぐ。そうこうしていると、じゃあ、こどもをあずかるとか、いそいでごはんをつくりますというひとがでてくる。それをムダといって、おこるようなひとはあまりいない。そういうムダでたべるひともいるのである。そういうムダのおおいチイキをトシとよんだりする。そこにはそういうムダがあるからしごとがある。だか

らひとがあつまる。ニホンだったらトウキョウがサイたるものだ。とにかくひとがあつまっている。ムダはムダだが、それはひとをたすけるから、いいムダだとゲンダイジンはいうのではないか。

ベツのムダもある。「ゼイキン」というやつである。これは、くにやカクジチタイにあつまられ、そのジュウミンのためにつかわれる。でも、ダイジなのは、さきのシジョウにおけるムダとドウヨウに、ひとにしごとをあたえることではないかとおもう。つまり、チョクセツのコウムインではなくても、しごとがえられ、たべられるようなひとをふやすというコウカがある。ふるくからはオウがそうやってコヨウをイジして、おさめるくにをヘイワにしていたのだろう。センソウをしているオウのはなしばかりをきいていると、なにをしてもいいひとみたいにおもってしまうが、ジッサイはそういうやくめをしているのだろう。

しかし、ムダをはぶいてしまえというひともある。とりひきのチュウカンにはいついただれかをはぶいてしまって、よりリエキをえたり、ショウヒンをやすくしたりというやりかたである。それだとムダははぶかれて、トクテイのひとはリエキ、シュウエキやねだんのやすさをえられるが、あいだにはいついたひとは、しごとがへるかうしなってしまう。それでいいのかというモンダイがある。

シャカイのアンテイをまもろうとしたら、ほどほどにしたホウがいいかもしれない。かねをふやすことをモクヒョウにしているひとがいるから、そういうムダをはぶいたりすることがショウレイされたりもする。ニホンでは「はげたか」とよばれ、あまりヒョウバンはよくなかったが、そういうひともある。なにはともあれ、そういうムダもやくにたっているわけだ。

よんジュウよん『よ』ヒャクゴジュウなな

イッカゲツのショクヒがジュウマンエンのひとと、イチマンエンのひとがいるとする。いまのニホンではジュウマンエンだせば、ケッコウいいショクジができるだろう。しかしイチマンエンではジュウブンなエイヨウはとりづらい。ひとは、そのひとを「ピンボウ」とよぶかもしれない。そういう「カクサ」がたまにモンダイになる。カクサがあってもいいというひともあるし、へらしたホウがいいというひともある。へらすとしたら、どうすればへるか。

ショクヒがつきにイチマンエンのひとが、ジュウマンエンのひとのショクジをつくれればいいだろう。ショクヒがつきにジュウマンエンのひとなら、ショクヒにジュウマンエンかけられるわけだから、イチマンエンのひとはジュウマンエンうけとって、ゴマンエンブンなり、ハチマンエンブンなりザイリョウをかい、ショクヒがジュウマンエンのひとにショクジをだせばいい。うまくいけば、ショクヒがジュウマンエンのひとはマンゾクだし、もともとショクヒがイチマンエンのひとは、ゴマンエンなり、ニマンエンなりをかせげる。すると、もとはイチマンエンのショクヒのひとはロクマンエンなりサンマンエンなりをショクヒにかけられることになる。そうするとカクサもへるし、シャカイもゆたかになるのではないか。

それをジッセンしていたりするの、イミンなどのリョウリやである。チュウカリョウリはニンキがあるらしい。そういうチュウゴクジンのチエはただしいとおもう。「チュウゴクジンのチエ」としたが、かならずしもチュウゴクジンだけのものではないとおもう。タンジュンにいえばそのくにのショクタクをみれば、そのくにのケイザリョクがわかるのである。ニホンはななジュウニネンまえのハイセンから「フッコウ」したというが、ホントウにショクタクがフッコウしているかといえぼうたがわしい。オウベイフウのショクリョウなどで、あなうめされているようなきがするからだ（それはかならずしもわるいことではないが）。デントウテキなニホンショクがあまりみられないきがする。それもセンギョウシュフがカツヤクしていたジダイには（ダンカイのセダイくらいまでだろうか）、デントウテキなショクがまもられていただろうが（それもさきのかんがえかたとおなじである）、そのあとのセダイのともばたらき力によって、ショクブンカがヘンヨウしているとおもわれる。フッコウは、ダンカイのセダイくらいまではセイコウしていたが、いまはザセツしているようなきがする。いいものをとりいれたといえばきこえはいいが、ほんもののニホンショクがみられなくなるのはちょっとかなしい。

よんジュウゴ『よ』ヒャクロクジュウなな

「コスト」をへらす。というコウテイテキにとらえるひとがおおいのではないか。たとえば、ネンピのよいくるまをかって、ガソリンイチリッターあたりジュッキロはしるところを、ニジュッキロはしるようになり、ネンリョウコストをニブンのイチ、ジュッキロあたりヒャクニジュウエンへらしましたと。カイシャでもコテイヒをへらして、ネンカンナンゼンマンエンヒョウをへらしたとかいう。でも、それにイをとなえるひとはあまりいない。タイテイ、それをきいたひとはよかったですねとか、うちもみならわなきやだろう。

しかし、そのコストは、ホントウにへるものなのか。さきのくるまでいうと、サクゲンされたイチリッターあたりヒャクニジュウエンのもと「コスト」はどこへいくのか。それはくるまホントウのねだんにいくというのがひとつのこたえだろう。つまり、ショウエネブヒンをつかっているために、まえにのっていたくるまよりハチジュウマンエンたかいか。カップラーメンがテイカニヒャクエンのところ、ヒャクエンでうっていたら、かうほうのコストはヒャクエンへるがそのもとコストはどこへいくのか。メーカーがフタンしているかもしれないし、こうりテンがフタンしているかもしれない。

つまり、ひとつのキャンテンからは「コスト」はへらせるのだが、そのもと「コスト」ジダイはなくなるものではないということだ。だから、だれかがコストカットしたというときには、ほかのだれかにコストがイテンしたということだ。キュウジュウネンダイのギンコウのフリュウサイケンモンダイでいえば、ギンコウの「あかじ」というコストは、イチジテキにせよ、すべてゼイキンでまかなわれた。つまりコストがノウゼイシャのホウにイテンしたのである。あとでかえされたらしいが、そうやってコストをすてしまえ、コストカットしたもとコストをそとにやっしまえというかんがえかただと、むかしのヨーロッパのデンセンビョウのはなしににているだろう。トシのジュウミンはフン

ニョウをジブンのへやのそとへほうりだした。みんながそうするから、とうとうデンセンビョウがハッセイしたというわけだ。だからコストのもっていきさきにはきをつけなければならない。

よんジュウロク『よ』ヒャクななジュウロク

キュウジュウネンダイに、ドヨウビをやすみにするというセイサクがおこなわれた。「セイショ」のキジュツにあるように、かみさまがシュウにムイカはたらいたのに、なんでニホンジンはイツカしかはたらかなくていいのかとおもう（●『よ』ヨンジュウなな）。ニホンジンは、はたらきすぎだとシテキをうけたともきいた。でも、そういいかえせなかったのだろうか。そうするとつとめにんは、そのひとのジカンができる。そのジカンをどうすぞか。あそびにいたりすれば、かねをつかう。それを「ショウヒ」とよぶのではないか。つまり、ニホンジンにショウヒをしてもらおうというコンタンだったかもしれない。はたらいていれば、かねをつかわないし、むしろ、キュウリョウをもらえる。しかし、ジブンのジカンがあると、あそんだり「ショウヒ」したりしてしまう。

そのころから、「ジブンさがし（●『よ』ヒャクナナジュウヨン）」などいわれはじめたかもしれない。つまり、「ジブン」のジカンがふえたからだ。どうせ「ショウヒ」するだけかもしれない。いってみれば、ジブンのジカンができて、「ショウヒ」をハッケンするのだ。しかし、ショウヒをするのが「ジブン」だとはかんがえにくい。まるでやくたたずみたいだからだ。だからナンコウする。「ニホンはナイジュをふやせ。」といわれていたようだから、まあ、それでナイジュはふえたのだろう。しかし、そのころをキテンに「ソウシツされたいくとし（●『よ』ヒャクヨンジュウニ）」のようにいわれるのではないか。キンムジカンがタショウ「ソウシツされた」のだ。わたしはいまになって、それがわかった。

しかし、ほかのセンシンコクでは、「ショウヒ」ばかりをしているのだろうか。そうではないとおもう。かしこく「ウンヨウ」しているのではないかとおもう。シュウキュウふつかになってから、「シサンウンヨウ」のはなしをきいた。もっとも、ニホンジンは「バブル」でこりていたかもしれないが、コンピュータのハッタツにより、ジタクでやりとりできるようにもなってきた。そういう「あそび」のホウがいいのかもしれない。ネンキンをジブンでウンヨウするガッシュウコクのひとは、そういうジカンをとっているのではないか。はたらきすぎると、おこられるジダイである。かしこく「あそび」たいものだ。

よんジュウシチ『よ』ヒャクななジュウキュウ

リエキのあるところにひとはちかよっていこう。シュウショクさきをきめるときなどそうだろう。あかじがおおいカイシャには、うりあげのすくないカイシャには、あまりちかよっていかないだろう。しごとをしてジブンもリエキをえられにくいからだ。それがあたりまえと「リエキ」をツイキュウする。それだけでたさいのか。

ヨーロッパのレキシをみると、ローマジダイからシュウキョウによるシハイがつよまった。おうはシュウキョウとむすびついていたとおもわれる。つまりおうはシンコウしてキョウカイとつきあっていた。しかし、ジウジグンやシュウキョウカイカクをへて、キョウカイのちからはよわまった。それからヨーロッパナイのセンソウがおこるようになる。また、コクガイにショクミンチをもとめるうごきもカソクした。ショクミンチは、シハイコクにとみをもたらすからだ。そうして「リエキ」によるシハイにイコウしていった。センソウといっても、ヘイにカネをはらってするものだから、おうのちからはシダイによわまっていった。ニホンもショクミンチをもつくとたたかっただし、ショクミンチをもとうとした。そのたたかひのケッカ、ショクミンチはジリツするようにもどった。そうして、リエキによるシハイをささえたひとつのホウホウがとりづらくなった。しかし、おおきなたたかひのハンセイというのもある。もっとも、カクヘイキのハイビがセンソウや「リエキ」によるシハイをおわらせたともいえる。それをつかって、センソウやリエキのツイキュウをすると、すべてのチキュウジョウのブンメイがおわってしまうからだ。そうしたことから、いやいやかもしれないが、コッカにおける「リエキ」のシハイはおわった。かわりになにによってシハイされているのか。「リョウシン」によってシハイされつつあるようにもおもう。だから、キギョウが「リエキ」だけでうごくとしたら、ふるいレジームでケイエイしているということだ。「リエキ」がでるということは、どこかに「フリエキ」がでるということだ。トクにショウケンそうばなどはそうだろう。そういうキジュンでやっていれば、かちまげができるから、トクベツいいとはいえないようなのである。

よんジュウハチ『よ』ヒャクキュウジュウ

わたしはステーキがすきだが、なかなかのねだんがするところが、たべるハンダンをヨウイにさせないテンである。やすくても（セットで）センエンくらいだが、ゴヒャクエンというところがあった。このジョウホウがしれわたると、そこにキヤクがサットウするというシンプイがあるが、ジツはカイガイなのでタブンモンダイはない。それもセットである。ニホンはブッカがさがっているから、むしろブッカをあげようというが、それはこのようなゲキやすステーキをタッセイしてからにしてみたい。

ニホンはブッカがたかいですよとサイキンきかなくなった。かわりに「ブッカ」をあげるである。たしかにブッカをあげると、ロウドウシャはうるおうが、しごとでつくったショウヒンがうれなくなったらそうとはかぎらない。サンビャクゴジュウミリリットルのジュースにしたって、ニホンではヒャクサンジュウエンするところをカイガイではハチジュウエンでうっていたりする。だからまだまだなのだ。それでタンジュンにリエキをだそうとかんがえれば、ユニウするわけだ。ブッカをあげれば、とみがカイガイにでていくのではないか。

よんジュウキュウ『よ』ヒャクキュウジュウイチ

ジブンのみちをいくことはむずかしい。わたしがわかいときは、そんなことはかんがえなかった。そんなことないだろう。カンタンだ。というひともいるかもしれない。すきなようにうごけばよいと。そんなことをいうひとは、なやみもビョウキもシツギョウもないのだろう。「なやみ」のないように、「ビョウキ」のないように、「シツギョウ」のないように、うごけばいいのだからと。しかし、よのなかの「なやみ」がなくなったとはきかないし、「ビョウキ」や「シツギョウ」もなくなったとはきかない。そんなにニンゲンやシャカイはカンタンではないのだ。

きまったジカンにイッセイにツウキンしていれば、「おなじような」ひとにであう。なにかあったら、「おなじような」ひと、ドウシにソウダンもできるだろう。そういうチョウシで、「みんな」のやっていることをすれば、そのコストはやすくなる。モンダイのカイケツにかかるコストが、「よくある」ゆえにひくくなる。それなら、みんなカイシャインをやればいだろうとなるが、そうもいかないのだろう。でも、「カクゴ」がないのだったら、「ジブン」のみちをあるくことは、やめたホウがいいかもしれない。たかくつくからだ。

ゴジュウ『よ』ヒャクキュウジュウゴ

わたしは、(キギョウがハッコウする)かぶにエンがないが、それをとりひきすることをソウゾウしてみた。マイニチゴパーセントずつふやしていけば(そういうメイガラはすくないだろうが)、ジュウゴニチでシキンがニバイになる。イチマンエンからはじめたら、ニマンエンになる。そのヨウリョウでつづくと、ヒャクヨンジュウサンニチメには、イッセンマンエンをこえる。そうやってかせぐひともいるのかとナットクである。それをジミチにやっていけば、もとでがなくてもかねもちになれるわけだ。

たしかに、イチニチでえられるバイリツは、ケイバやパチンコよりもすくない。よくてジュパーセントだからだ。しかし、それをまめにやっていれば、かねをかせげるのであろう(やったことがないのでわからない)。ただイチニチじゅう(たかがゴジカンだが)、ガメンにむきあっているのはつらいかもしれない。しかし、そうやってまめにやったひとが、「トウシでかせげる」などとホンをだすのであろう。よんだホウは、それだけこまめにできるかはわからない。わたしもそういうこまかいサギョウはすきだが、いまのところそれをやろうとはおもわない。ほかのことをしたいとおもっている。

ものみダイからのケイザイガク シドクバン
エイゾウ

ニセンジュウキュウネンクガツサンジュウニチ

エイチティティピーコロンスラッシュスラッシュアアイアイアイティオージーエーピリオ
ドシーオーエム

ティエスユーエスエイチアイエヌアットマークアアイアイアイティオージーエーピリオド
シーオーエム

エイゾウのホン

『アルクカラカンガエル』ニセンジュウゴネン

『むしのツゴウニンゲンのツゴウ』ニセンジュウシチネン

『よろこぶゲンシジン』ニセンジュウハチネン

『オンガクイチエンのジダイ』ニセンジュウハチネン

『スーペリアーをみつけた。』ニセンジュウキュウネン

『ウンドウはすべてエレクトリック。』ニセンジュウキュウネン

『エルガクひとりブツリガクのチョウセン』ニセンジュウキュウネン

エイゾウのデンシサイトからコウニューできます。

<http://eizo09.com>

『ものみダイからのケイザイガク』シドクバン

著 エイゾウ

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
